

『甲種 危険物取扱者試験 令和6年版』 に関するお詫びと訂正のご案内

『甲種 危険物取扱者試験 令和6年版』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願い致します。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。

よろしくお願ひ申し上げます。

初 版

P23 更新：R6.2.5	赤字部分を訂正	問10…正解2 指定数量の倍数はそれぞれ、第1種自己反応性物質 10kg 、第2種可燃性固体 500kg 、第3種酸化性固体 1,000kg である。 $(100\text{kg} / 10\text{kg}) + (1,000\text{kg} / 500\text{kg}) + (2,000\text{kg} / 1,000\text{kg}) = 14$												
P184 更新：R6.1.30	赤字部分を訂正	問9…正解1 (B) A. 二硫化炭素は第4類の危険物に該当する。 B. 過酸化カリウムは第1類の危険物 (不燃性) に該当する。可燃物となるものがない。 C. 鉄粉は第2類の危険物に該当する。酸化熱の蓄積により自然発火することがある。 D. ナトリウムは第3類の危険物に該当する。ナトリウムは水と反応して水素を発生し、この水素が反応熱で発火することがある。 E. 硝酸メチルは第5類の危険物に該当する。硝酸メチルは加熱すると爆発しやすい。												
P196 更新：R6.1.29	誤	問8…正解3 完全燃焼時の化学反応式 $2\text{CH}_3\text{OH} + 3\text{O}_2 \longrightarrow 2\text{CO}_2 + 4\text{H}_2\text{O}$ 化学反応式から、2 mol のメタノールの完全燃焼で2 mol の二酸化炭素が生成していることがわかる。 気体1 mol の体積は22.4L であることから、発生する二酸化炭素の体積は $22.4\text{L} \times 2 = 44.8\text{L}$ となり、最も近いものは45L となる。												
	正	問8…正解1 完全燃焼時の化学反応式 $2\text{CH}_3\text{OH} + 3\text{O}_2 \longrightarrow 2\text{CO}_2 + 4\text{H}_2\text{O}$ 化学反応式から、2 mol のメタノールの完全燃焼で2 mol の二酸化炭素が生成していることがわかる。 気体1 mol の体積は22.4L であることから、 発生する二酸化炭素1 mol の体積は22.4L となり、最も近いものは22L となる。												
P262 更新：R6.2.26	赤字部分を訂正	問3…正解2 水・ホウ酸・飽和水溶液の関係をまとめる。 <table border="1"><thead><tr><th></th><th>水</th><th>ホウ酸</th><th>飽和水溶液</th></tr></thead><tbody><tr><th>温度80℃</th><td>100g</td><td>25g</td><td>125g</td></tr><tr><th>温度20℃</th><td>100g</td><td>5g</td><td>105g</td></tr></tbody></table>		水	ホウ酸	飽和水溶液	温度80℃	100g	25g	125g	温度20℃	100g	5g	105g
	水	ホウ酸	飽和水溶液											
温度80℃	100g	25g	125g											
温度20℃	100g	5g	105g											

